

# 緑尼会通信 vol.20

Green &amp; Sweet

## 第20回まとめ

尼崎中央病院  
伊福秀貴

緑尼会通信

平成18年10月に創刊してから、年2回のペースでこの通信を続けてまいりました。今回は記念すべき第20回となります。第10回は表紙に金飾りが入りました。しかし、この通信の資金源としての薬品会社からの広告掲載がこのご時世で困難となり、ほぼ会社名だけで現実、寄付という形で運営してまいりました。勿論、会員の皆様のご協力があったの緑尼会通信ではありますが、継続の方法や回数の問題は、次回理事会総会にて最終決定したいと思います。



一方、総本部の緑樹会はどうか？石蔵会長は孤軍奮闘しております。しかし手助けする人材がないのが大きな問題と思います。同窓会の副会長大江先生黒田先生は、医師会長兼務。忙しすぎます。大学内中心の常任理事も、応援はするが積極的に会長を補佐している雰囲気ではありません。前会長時代のY先生、N先生のような元気が不足しているように思います。兵庫医大のような上品な大学には元気が絶対数不足しているのでしょうか？なかなか日の目を見ないのでしょくか？当院の大学の同窓会に参加しない先生や、年会費を払わない先生に同窓会への帰属意識に関して質問したことがあります。“子供が兵庫医大に入学するようなことがあれば総会、地区会に参加や会費納入する気持ちにはなるが、そうでなかったら自分の生活をするので精一杯だ”と言われます。精一杯とはどういう意味でしょうか？

自分の家族（子供の教育・就職。嫁あるいは夫の関係維持。父母親の介護）のことや友人関係（医師会・学会・趣味）が中心で、同窓会への思いはずっと下という意味を持つのでしょうか？緑樹会や兵庫医大はいつもお金がなく、運営がきびしいと言われます。果たしてお金でしょうか？

同窓会が運営上お金を持つということは、行事や大学への要望を行うことでは必要不可欠と思います。しかし、人材はもっと重要だと思います。若い人を発掘しないと、現理事の高齢化とともに活動力は低下していく一方です。現在の兵庫医科大学生の中には、執行部候補は沢山おられると思います。学生は忙し過ぎると言われますが、能力の高い元気者はいると思います。大学内の学生で、これと言う人物には低学年からお願いして、会長候補・副会長候補を人選していくべきだと思います。特に留年している人や、国試浪人は大学生活が長くなり、学内の先生と距離が縮まり同窓会の活動にも参加しやすくなる方もおられるはずで

一旦、外の世界・開業・病院勤めすると別の誘惑（医師会長・議員）に誘われます。誘惑される前に決めておく。決して子供が兵庫医大に入学するから、同窓会の役員になってもいいと言う中途半端な気持ちの人だけ

でなく、根性が入った元気者が必要です。

平成28年9月24日兵庫医大同窓会主催で、全国私立医科大学同窓会連絡会（第26回西部会）がポートピアホテルで開催され、無事終了しました。詳細は緑樹会会報にて、会長より報告があると思います。その中で愕然としたのは、他大学では大学自身が同窓会を非常に大事にされ、入学時に学生から同窓会の会費を自ら集めて、むしろ同窓会を盛り上げて行こうという雰囲気になり溢れているということです。会長が熱心にやるよりは、大学が会長さんのやる気を出させているというぐらいの温度差がありました。一方、兵庫医大となると言い方は悪いが同窓会を利用しようとする雰囲気が溢れております。この関係を解消するのが重要であります。兵庫医大の理事会にも同窓会長・副会長・常任理事数名は入れるぐらいの大学側の柔軟性と度量があれば、同窓会は活性化すると感じました。会長はそれを突破口にするぐらいの強い意志が必要です。

新入会員紹介 かやはらクリニック 昭和59年卒 栢原 尚之



平成28年4月1日より杭瀬地区で開業しました「かやはらクリニック」栢原尚之（かやはらたかゆき）と申します。診療は心療内科、精神科、老年内科を中心にを行い、在宅診療も行っています。

学生時代は準硬式野球部で、同期の野間診療所の野間先生、尼崎中央病院の山浦先生も同じく尼崎の医療現場で活躍されています。

昭和59年に卒業後第3内科に入局、尼崎には医局から平成5年～10年まで内科医として大隈病院に勤務していました。その後、愛媛県松山市で父親が内科医院を開業していましたが、以前よりの夢を追い、平成15年から精神科医の道に入りました。兵庫県丹波市にある香良病院に勤務し、精神保健指定医、精神神経学会専門医を取得し、平成20年7月より大隈義彦先生の御厚意でおおくまクリニックに勤務するようになりました。

平成26年両親も尼崎で生活するようになり、今後更なる精神疾患に対する専門医療を目指したいという気持ちより、かやはらクリニックを開業しました。微力ではありますが、高齢化社会における問題の認知症や精神疾患に対する医療に貢献していきたいと考えておりますので、御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

Daiichi-Sankyo  
第一三共株式会社  
www.daiichisankyo.co.jp

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。

大正薬山医薬品

選択的SGLT2阻害剤—2型糖尿病治療剤— 新薬 基準内製

ルセフィ錠 2.5mg 5mg

ルセオグリフロニン水和物製剤

大正薬山株式会社

## 新入会員紹介

## 櫻井 淳



平成28年4月より尼崎中央病院消化器内科医として赴任致しました櫻井 淳と申します。平成14年に兵庫医科大学を卒業し、同大学旧第四内科（現在の消化管内科）に入局、その後大学、順天堂大学附属練馬病院にて勤務しておりました。平成26年4月からは、西宮市の明和病院で2年間勤務し、今回尼崎中央病院にて勤務させて頂く事となりました。

これまで消化器内科医として外来、病棟診療だけでなく、上下部内視鏡検査および内視鏡的大腸ポリープ切除術、粘膜切除術（EMR）や粘膜下層剥離術（ESD）、その他胆膵疾患の診療、検査（ERCP）、治療に取り組んで参りました。

現在当院では岡 秀男部長のもと、浦岡正尚先生、藤村忠宏先生とともに4人体制で消化器内科診療に取り組んでおります。また、患者様にとってより良い診療、治療を提供できるように、週に1回外科医、放射線科医、病理医とカンファレンスを行っております。当院では他科の先生、コメディカルのスタッフとのコミュニケーションも良好であり、緊急内視鏡検査、治療および画像検査ができるような体制が整っております。緑尼会の先生方からのご要望・ご依頼、また地域の患者さまの医療に貢献できるよう努力して参りたいと思っております。また内視鏡関連にかかわらず、緊急対応が必要な患者さまがおられましたら、できる限り対応させて頂きたいと思っておりますので、是非御依頼頂ければと思います。

今後尼崎中央病院では今までの経験をもとに、ますます診療、内視鏡診断・内視鏡治療に力を入れていきたいと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



まだなくすりを  
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病状とたたかう人たちがいます。

明日を変える一歩を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。

 **astellas**  
Leading Light for Life  
アステラス製薬

[www.astellas.com/jp/](http://www.astellas.com/jp/)



明日をもっとすこやかに

**meiji**

Meiji Seika ファルマ株式会社

作成：2012.05

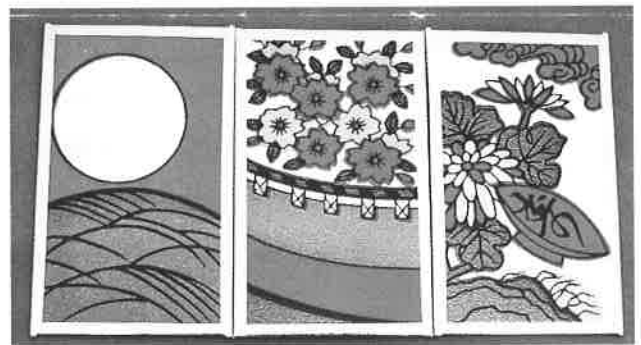
## 緑尼会通信20号を記念して

平成2年卒 児玉 岳

ちょっと卑俗かつ直截的な言い回しですが「二十坊主に牛の金玉」という慣用句があります。二十歳そこそこの若いお坊さんは、案外、若い女性の魅力に落ちそうで落ちない…。それと同じように牛の金玉も、落ちそうで落ちない…。すなわち、「触れなば落ちそうなのに、案外どうにもならない」というようなときに使う言葉なのでしょう。

面白い言い回しだと思います。若い僧侶の青々とした坊主頭（聖）と牛の金玉（俗）を同じ目線に並べるとは。「月とすっぽん」（同じように丸いものなのに天空と泥中、まったく違う）にも勝るとも劣らぬ観察眼かもしれません。

この「二十坊主」という言い回しがあったが故に、花札の「坊主」の20点札も「二十坊主」というのかもしれません。ススキの生えた山の上に満月が出ているめでたい(?) 図柄です。この「二十坊主」と「菊に盃」の札をゲットすると「月観て一杯」のコンボになります。この「坊主」札は1点札が2枚と10点札が1枚、20点札が1枚で構成されます。5点札（短冊札）が無いのですが、20点札と10点札を合わせて取ると合計30点（三十坊主とも）となるビッグな札です。



ところで、「五十坊主に鹿の角」という言い回しもあるそうです。これは全く逆で、悟りを開いたような五十歳の僧侶も、季節が来たときの鹿の角のようにポロッと落ちることもあるよ…という意味だそうです。自戒せねば。(笑)

## 編集後記

平成7年卒 鈴木 温

冒頭で伊福先生が述べられているように、記念すべき『緑尼会通信第20号』です。とは言うものの、資金難、原稿難もあっていつもと変わらない緑尼会通信です。今後の在り方についても考える時期がきているようで、時代の変化とともに従来通りの方法では維持、運営というものが難しくなっているようです。

同窓生のメリットといえば、会話のきっかけが作りやすいという事があげられます。何年卒？どこの医局？などの会話から話を膨らませやすいのではないのでしょうか？今話題の地域包括ケアでは多職種連携が必要ですが近隣他科との連携も重要になってくると思います。学閥というものは好きではないですが、同窓のメリットを活かしてよりよい地域包括ケアができるようになればと思います。

今後も会員の先生方に少しでも役に立つような紙面づくりを考えていきたいと思いますので、皆さまご協力の程、お願い申し上げます。



緑尼会通信 Green &amp; Sweet

平成28年10月15日

代表世話人 伊 福 秀 貴

編集人 鈴 木 温

印刷 日 興 商 会